



徳川美術館 名品コレクション展示

令和6年9月10日(火)～12月15日(日)

展示期間 A:9/10(火)～10/14(月・祝) B:10/16(水)～11/15(金) C:11/16(土)～12/15(日)

【第4展示室】

武家の式楽 - 能 -

足利将軍家は、猿楽＝能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面 童子	伝出目満永作	江戸	18	A
2	能面 大癡見(長霊癡見)		江戸	18	A
3	能面 増(泣増) 焼印「出目満真」	出目満真作	江戸	18	B
4	能面 狸々 焼印「児玉近江」	児玉満昌作	江戸	17	B
5	能面 三日月	個人蔵	江戸	17-18	C
6	能面 邯鄲男	伝出目満庸作	江戸	18	C
7	萌黄地亀甲に桐文金襴袷狩衣		江戸	18	B
8	萌黄地毘沙門亀甲に龍の丸文金襴袷狩衣		江戸	18	C
9	白地丁字立涌に松・桐文金襴単狩衣		江戸	18	A
10	花色地菊唐草文金襴袷法被		江戸	18-19	A
11	紫地秋草に蝶文長絹		江戸	18	B
12	納戸地扇に蔦唐草文長絹		江戸	18	C
13	萌黄地七宝文・浅葱地紗綾形文染分素袍(上着)		江戸	18-19	A
14	花色地菊水文素袍(上着)		江戸	19	B
15	蝶繫・吹寄文染分掛素袍		江戸	19	C
能舞台					
16	紅・水色段秋草文唐織		江戸	17	A
17	水色・茶・納戸段秋草文唐織		江戸	17	B
18	浅葱・茶段七宝に鶴菱・雲文厚板唐織		江戸	17	C
19	格子と萌黄地稻妻に源氏車文段替厚板		江戸	17	A
20	花入格子厚板		江戸	19	B
21	格子と飛雲亀甲文段替厚板		江戸	17	C
22	萌黄地片輪車文鬘帯		江戸	18-19	A
23	胴箔桐唐草文鬘帯		江戸	18-19	B
24	浅葱地松樹文鬘帯		江戸	18-19	C
25	胴箔秋の野文腰帯		江戸	18	A
26	紅地菊文腰帯		江戸	18-19	B
27	胴箔桐文腰帯		江戸	18-19	C
28	竹に孔雀図中啓		江戸	19	A
29	飛雲に雷文中啓		江戸	18-19	B
30	霞に花の丸文中啓		江戸	19	C